思いやりの心、忘れていませんか？

北杜市立長坂中学校三年　　輿石　ひと美

先日母とスーパーに買い物に出かけた際、とても難しい状況に直面しました。

私が店内で、商品を眺めながら移動しようとした時です。近くでカートを押している女性が、まるで何かにぶつかったかのような勢いで私から遠ざかりました。私はその時何が起きたのか分からず動けませんでした。

女性は三十代前半くらいで、目深に黒い帽子を被りサングラスをかけ、大きめのマスクをし、両手はビニール手袋をしていました。更に片手にクリアファイルを持っていました。そのクリアファイルを、まるで盾のように顔の前にかざしていたのです。

咄嗟の事で訳が分かりませんでした。私が何かしたのかと不安に感じつつ女性の姿に驚き立ちすくんでいました。

その女性は直ぐにその場から離れ買い物を続けていました。様子をみているとすれ違う人や商品を見ているお客さん全ての人と、二メートルから三メートル位距離を取っていました。

この事を母に話すと、母もその女性の行動に気付いていて、おそらくコロナ感染を気にしての事だろうと二人で納得しました。

その後も店内でたびたび彼女を見かけました。時にはカートで店員さんを押し退け、強引に距離を取っていました。それらの行動を怪訝な顔で見る人、何も気にせず通り過ぎる人様々でした。

しばらくして、男性の大きな怒鳴り声がしたのでそちらを見ると、そこで高齢の男性がマスクをせず女性に向かって怒鳴っていたのです。その女性は先ほどの人でした。男性は女性の行動が、まるで自分をバイ菌のように扱い馬鹿にしていると怒鳴り、女性はマスクをするよう小さな声で抗議していました。

最終的に二人がどのような形で落ち着いたのかは分かりませんが、私は色々と考えていました。

コロナに感染したくなくて、出来る限り防護の出来る服装で買い物に来た女性の姿を、みんなと違う変な人だと男性は言い、マスクをせず怒鳴り散らす男性を変な人だと女性はいい、お互いに相手をけなしていました。その様子を遠巻きにみんな見ながら、ヒソヒソと二人とも変だと言う人々。楽しいはずの買い物がとても嫌な空気に包まれてしまいました。

車の中で母と騒動を避けるにはどうしたら良かったのか話しました。女性は宅配サービスを利用するとか、開店の時間に店を訪れるなど人との接触を避ける工夫は出来なかったのだろうか。男性は店内入口にマスクをするよう促す掲示を確認しなかったのか。話をする際ハンカチ等で口を覆う事は出来なかったのか。少しの工夫で避けられた事だったのかもしれません。家に着いてからも考えました。そして今回の出来事を考えた時、人権という言葉が頭に思い浮かびました。

改めて人権とは何かと調べてみると、法務省のホームページには「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」「あるいは人間が人間らしく生きる権利で生まれながらに持つ権利」『誰にとっても身近で大切なもの、日常の思いやりの心によって守られるもの』だとあります。もっと簡単に言うとみんなと仲良くすることだともありました。

コロナの感染者が国内で出てから約三年になります。最初の頃は一人陽性者が出ただけで、全国ニュースで話題に上がり個人を特定する様な話題で持ち上がっていました。今は感染者数が増えたので、あの頃のように感染者を悪者扱いはしていませんが、それでも陽性者を避けるような空気はあります。私は、コロナのせいで思いやりの精神が薄れてしまっていると感じています。

幼い頃から「みんな違ってみんないい」という言葉を学んできました。それこそが人権を大切に思う心なのではないでしょうか。様々な考え方があるからこそ、人は学び成長していくと思います。それには思いやりの気持ちを持って歩み寄ることが必要だとも思います。コロナで希薄になっている人間関係をここで考え直す時間が必要かもしれません。

相手のことを思いやっていたら、お店でのトラブルもなかったのではないかと思いました。情報がはんらんし、真実がどれなのか見分けられない現代。コロナ感染症は人類を試しているようにも感じます。この出来事を通し、私も思いやりの気持ちを日々忘れないようにしようと、改めて考えさせられました。